

第2回いなべ市総合計画審議会 会議録

会議名	第2回いなべ市総合計画審議会(第2次いなべ市総合計画第2期基本計画策定)
開催日時	令和元年8月8日(木) 14:00~16:00
開催場所	いなべ市役所 議会棟 2階 第1委員会室
出席者	<p>【委員】19名(欠席1名:相田 直隆) 丸山 康人、中澤 政直、田中 佳奈、近藤 忠彦、神谷 清、岩花 まつ子、福本 美津子、中村 弘樹、二井 加代子、小林 久里子、伊藤 和雄、伊藤 由佳、佐藤 忠生、小川 好彦、川上 修、水貝 和代、弓矢 孝己、山本 たか代、小川 時生</p> <p>【事務局】16名 副市長、総務部長、市民部長、環境部長、福祉部長、健康こども部長、農林商工部長、建設部次長兼公共建築課長、教育部長、水道部長、企画部長、政策課長、政策課4名</p> <p>【オブザーバー】1名 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 説明および審議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) スケジュールについて…資料1 (2) いなべ市総合計画・総合戦略事業取組経過報告について…資料別冊 4. 意見交換 5. 次回の会議について 6. 閉会
配布資料	<p>資料1 いなべ市総合戦略・第2次いなべ市総合計画後期基本計画スケジュール(案)</p> <p>資料別冊 平成30年度総合計画・総合戦略事業取組経過報告書(地方創生関連交付金事業取組経過報告書)</p>
公開、非公開の別	公開
議 事 概 要	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 説明および審議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) スケジュールについて 【事務局】 資料1について説明 	

【会長】

質問があればお願いしたい。

特に無いようなので次の議題に進みたい。

(2) いなべ市総合計画・総合戦略事業取組経過報告について

【事務局】

資料別冊について説明

4. 意見交換

【会長】

では、質問をお願いしたい。今後、この会議で皆さんに見直しを検討してもらう取組についての経過報告なので、まずはチェックをお願いしたい。

【委員】

いなべ市では外国人の方が増加している。これからはより一層、外国人の方の力が必要になる。総合戦略・総合計画の人口の統計には外国人の方の人数は含まれているのか。人数はどの程度か。外国人の方に向けた戦略についてはどう考えているのか伺いたい。

【事務局】

統計には外国人の人数も入っており、2,000 人程である。日本全国も、いなべ市も人口減少社会となっており、そうした中では外国人の方に力を発揮していただく時期が既に到来している。市としても対応が必要であると認識しており、これから策定する総合計画後期基本計画の中で検討していきたい。

【会長】

5年前の総合計画策定の際には外国人についての議論は無かったように思う。今回の計画策定では一つの課題となるだろう。これからの会議を通じて皆さんと議論していきたい。

【副会長】

指標については客観的にみていくことが大事である。既に 100%を大きく超えて今後の A ランクが約束されているような指標は見直しを検討してほしい。成果が指標の 200%を越えるようなものは、予算や人員を過剰につき込んでいると捉えることもできる。過剰なサービスになっていないかという視点も必要である。既に計画途中で見直しをしている指標もあるので、適切な数値に見直すとともに掲載方法もわかりやすくしてほしい。また、累計だと年々増えていくイメージだが年度ごとの数値を掲載しているものもあるため、累計数の指標については掲載方法を統一してほしい。

【会長】

数値目標については、何が適切か、何を目標にするのか、毎年チェックしてほしい。例えばカーブミラーを 10 個つくるというのは目標ではなく、事故を減らすことが大切なことである。数値目標が達成されたことが政策の効果につながったのかをチェックすることが重要である。各課が数値目標を持つことは大切なことで、各課が共通の目標を持つということと、市民と目標を共有するという価値がある。今回は5年ごとの見直しの機会となるため、指標についても適切なものとなるよう検討していきたい。

【委員】

3点質問したい。

外国籍の方は、自治会には加入しているのか。地域によって様々だと思うがゴミや地域のルールについて市として周知はできているか。

学校教育について地域の教育力が無くなってきているが、市としてはどう考えるか。

私も農業を少しやっているが、獣害がひどい。網を張っていたが殆どサルにやられてしまった。市としてもかなりのことはやってきたと思うが、今後の対策についてはどう考えているのか。

【事務局】

外国籍の方の自治体加入は約 2,000 人、世帯数は 1,000 世帯程度である。転入手続きの際にポルトガル語等で、窓口対応できるようにしており、世帯の方には理解してもらっている。単身の方への対応は移動も多いので難しい問題であるが、アパートの管理者や雇用している企業に対応してもらっている。

【事務局】

外国人のごみルールの周知について補足したい。企業の関係で、集団で移動してくる外国籍の方々も多いため、転入の際に雇用者を通じて国籍を把握し、ごみ分別の表を用意して周知を徹底してもらうようにしている。そのうえでルールを守れない方については、自治会長さんにも依頼して周知を徹底してもらっている。

【事務局】

地域の教育力については、コミュニティスクールを推進するなかで学校を通じて地域の方々に取組んでもらっている。また、今年度は学援隊の募集を強化し、学援隊の取組を通じて、通学援助支援、見守り、社会ルールの浸透を推進していく。

【事務局】

獣害については、現在、臨時職員 6 名での 365 日パトロールや網や檻の助成、ロケット花火の無償配布などを実施しているが、行政だけで対応することは難しいため、地域のリーダーを養成する講座を 10 月から開催していく予定である。カラス、イノシシ、シカ、サル等の各獣の特性などへの対策も含めて、半年かけてリーダーづくりを行っていく計画となっている。

【会長】

今の 3 点の質問は、どれも次期総合計画の重要なテーマになってくるだろう。

【委員】

学援隊の数は大変増えたと思うが、具体的な活動内容を把握できないことがある。もちろん登録人数も大切だが、内容の周知が進めば活動も広がると思う。働く親が増え、登下校の見守りも難しくなっており、回数を減らす地域もある。

外国の子どもも増えている。子どもは学校で日本語を覚えるが、親は覚えられない。市で担当部課を設けるのは難しいと思うが、支援できる窓口があればよいと思う。

【事務局】

学援隊については、学校で募集についての周知をしようと考えていたところだが、ご意見をふまえて、ホームページなど、色んな形で周知していきたい。

【副市長】

外国人の総合窓口をすぐに設置するのは難しいが、各課でしっかりと対応できるようにしていく。

【会長】

外国人について行政が対応しきれないケースは多い。NPO 等への支援など、民間を含めて検討すべき課題である。外国人の人口の状況を見ながら、次期総合計画で検討して行きたい。

5. 次回の会議について 6. 閉会
その他事項
無し